

ソナナ N の感情・評価の意味はどのように生じるか

堤 良 一

1. 問題の所在

本稿ではソナナNが感情・評価の意味を帯びる理由について論じる。先行研究においてソナナNが感情・評価の意味を帯びることが指摘されている。(1)(2)では「そんなこと」「そんなやつ」が何らかの批判、非難めいたニュアンスを帯びる。感情・評価の意味を帯びない(3)と比較されたい。

- (1) そんなことをしてはいけません。(=悪いこと、ひどいこと)
- (2) そんなやつの何がいの? (=ひどいひと etc.)
- (3) いい帽子ですね。最近そんな帽子をよく見ますね。

先行研究では、(1)(2)のように感情・評価の意味が生じる例については記述されてきたが(3)ではなぜその意味を帯びないのかについては言及されてこなかった。また、(1)(2)ではソナナNは眼前の事態や人物を特定の指すが(3)では先行詞と同種の帽子を指す。この指し方の違いと感情・評価の意味の連関を探った研究もないようである。本稿ではこのような問題意識の下、感情・評価の意味がどのような場合に付与されるかを探る。なお、「そんな素晴らしい賞をとるなんて夢のようです」(鈴木(2006:91))のようなプラスニュアンスを感情・評価の意味に含める研究もあるが、ソナナNのみではマイナスニュアンスに偏る傾向がある(中俣2010)。(4)aは「そんな素晴らしい男性と結婚するなんて羨ましい」という意味には解釈しにくいし、(4)cでもマイナス評価に傾く。本稿ではマイナスニュアンスの感情・評価の意味のみを考察対象とし、プラスニュアンスのものについては今後の課題とする。

- (4)a. そんな男性と結婚するなんて!
- b. ??そんな賞をとるなんて!
- c. そんな宝物、価値が(??ある/ない)。(c.は中俣(2010:427))

ソナナについての研究には金水他(1989)、木村(1993)、岡部(1995)、鈴木(2005、2006)、中俣(2010)、庵・三枝(2013)などがある。鈴木(2006)ではソナナの基本的機能を(5)のようにまとめ、感情・評価の意味が生じる理由を(6)のようにしている¹。

- (5) 「そんなX…」文の基本的な意味機能:
「そんなX」は、先行文脈で述べられたところの性質・特徴を持つ事物Xを表し、その性質・

1 鈴木(2006)は感情・評価の意味を「価値・意味がない」「予想外」の二種に分けているが、その記述は似ているのでここでは前者で代表させる。

特徴を、何らかのより一般化された概念としてまとめあげる働きをする。指し示された性質・特徴の他に、それと類似の性質・特徴も暗に示されることになる。(以降省略、鈴木(2006:94))

- (6) 「そんなX…」文における「そんなX」に「価値・意味がない」という否定的な感情・評価的意味が伴う場合：

「そんなX」は、先行文脈で述べられたところの性質・特徴を持つ事物Xを表す。指し示された性質・特徴の客観的なプラス・マイナスの価値に関わらず、それは話者から見て、何らかの意味で価値・意味がないものとして一般化され、まとめあげられる。(鈴木(2006:102))

鈴木によると、感情・評価的意味はソンナがXをまとめあげる時の話者の気持ち次第ということになる。

次に中俣(2010)はソンナが低評価という意味を獲得するメカニズムを、「経験基盤的ヒエラルキー構造」が適用されることに求めている。これは「上位にあるものは数が少なく、下位にあるものは数が多い」(p.429)という我々の経験的知識に基づくものである。ソンナは「同様の属性をもつ事物の集合を作り上げる働きをもつ」(p.430)と考えられるため、数が多いと捉えられ、この構造が適用され低評価に偏るとする。興味深い分析ではあるものの、低評価、価値が低いということと、ソンナNが表しているマイナスのニュアンスが同質のものであるかは疑問である。さらに、(7)では「そんな帽子」はそもそも数が多く(よく見る)、なおかつ集合として解釈されるが、低評価の意味はない。中俣の分析ではこれは「経験基盤的ヒエラルキー構造」が適用されないということになるが、この構造がいつ適用され、いつ適用されないのか必ずしも明らかではない。

- (7) その帽子流行ってますね。そんな帽子をかぶった人をよく見ますよ。

これらの先行研究には、ソンナNが何を指示しているかという視点がない。ソンナNには、Nが種類を表す場合(以下、種類解釈)とNが先行詞と同一の指示対象を指す場合(以下、同一指示解釈)とがあり、後者では感情・評価的意味が義務的に生じる。(8) dは「まずかった」わけであるから、「価値がないもの」と言えるが不自然に響く。これは「そんなぜんざい」が「昨日食べたぜんざい」と同一の対象を指示していることと関係していると思われる(以下、感情・評価的意味の有無を"+e,-e"のように表記する)。なお、両者はソノで言い換えられるかでテストできる。ソノは「指定指示」(本稿の同一指示解釈)の用法として、先行詞の指示対象を同定する用法を持つ(庵2007)。

- (8) a. え？ そんな／#その人／いないでしょう。(種類解釈、[+e])

- b. そんな／#その靴をはいた人を最近よく見ますね。(種類解釈、[-e]) (聞き手は持っている靴と全く同じ種類の靴という意味ではソノは可能であるが、ソンナとは意味が異なる)

- c. そんな／その男とは別れなさい。(同一指示解釈、[+e])

- d. 昨日ぜんざいを食べました。*そんな／そのぜんざいはまずかった。

(同一指示解釈、[-e])

種類解釈の場合は[+/-e] 両方可能であるが(8ab)、同一指示解釈の場合は[-e] は不自然となる

(8d)。この二種の解釈は従来の研究で区別されることなく論じられてきているが、別に考察される必要があろう。

以上を踏まえ、本稿ではソナナが付与される名詞の指示性と感情・評価の意味の現れ方に着目し、次のような主張を行う。

- (9)a. ソナナNの用法には同一指示解釈と種類解釈とがある。
- b. 同一指示解釈では感情・評価の意味は必ず生じる。
- c. 種類解釈では感情・評価の意味は前後の文脈により付与され得る。
- d. 抽象名詞では一般的に、具体物を指す名詞に比べて感情・評価の意味を帯びにくい²が、同一指示と解釈されればそれは生じ得る。
- e. ソナナが固有名詞に付与される場合、種類解釈になる場合と接続詞的に用いられる場合とがあり、ともに感情・評価の意味はない。

感情・評価の意味があるかどうかは、以下の2つのテストで確かめられる。感情・評価の意味は、取り立て詞「なんて・なんか²」と相性がよい。(10)bのように感情・評価の意味がない場合には「なんて・なんか」は付きにくい。

- (10)a. いい靴ですね。最近そんな靴をよく見かけます。
- b. いい靴ですね。*最近そんな靴なんかをよく見かけます。
- (11)a. そんな話なんて信じられない。
- b. そんな本なんか読みたくない。

一方、「ような」を付与すれば感情・評価の意味が薄くなる。

- (12)a. いい靴ですね。最近そんなような靴をよく見かけます。
- b. ??そんなようなやつの何がいいの？

後述のように抽象名詞「感じ」は、いかなる場合にも感情・評価の意味を帯びない。したがって、「感じ」では常に(13)のように「なんて・なんか」は不自然に、「ような」は自然になる。

- (13)a. *そんな感じなんてあり得ない／許せない。
- b. そんなような感じでお願いします。

本稿は以下のように構成される。次節でソナナ文に同一指示解釈と種類解釈の二種があることを見る。3節では、感情・評価の意味が読み込まれにくい抽象名詞と固有名詞について観察する。4節はまとめと今後の課題である。

2. 二種類のソナナ文

2. 1. 同一指示解釈

本節では、特定の対象を指示するソナナ文は、感情・評価の意味を義務的に帯びることを見

2 勧誘の文脈に現れる「なんか・なんて」は考慮の外に措く。

i) そんな靴なんていかがですか？ ii) あ、それなんかいいんじゃない？

これらの「なんか・なんて」も、種類解釈される名詞に付くことに注意されたい。

る。まずはソナナが先行詞と同一の対象を指示することを見よう。ソナナ文が感情・評価の意味を表す場合の述語は「必要ない」「だめだ」「辞めろ(辞めるべきだ)」のように、一般的な事柄を言っているように見えるものが多い。

- (14) a. そんなことしちゃだめでしょ！
- b. そんな仕事は辞めてしまえ。
- c. そんなやつと付き合わなくてもいいでしょ。

(14)aは眼前で行われている「そんなこと」に類する全てのことについて禁じる文、(14)bは聞き手がしている仕事と同種の仕事ならいつでも辞めろと提言する文、(14)cは聞き手が付き合おうとしている人と同種の人間と交際することの不要性を、それぞれ述べていると考えられるかもしれない。これはソナナの基本的な意味が種類解釈であるからである(後述)。しかし、これらの文が発話時に述べていることは、話題になっている指示対象そのものについてである。同種のものについては何も言及していないことに注意されたい((15))。これは感情・評価の意味を伴わないソナナ文(16)とは異なる。

- (15) a. そんなことしちゃだめ！(他のことについては言及していない)。
- b. そんな仕事は辞めてしまえ。(別の仕事のことは言及していない)。
- (16) a. そんな帽子を見かけます。(その帽子と同種のものを含意する)。
- b. 「1+1×2は？」とか、そんな問題だったと思います。(それと全く同じ問題である必要はない)

また、一回的な事象に用いられる文も存在する。これらのソナナ文は、一般的なことを述べているのではなく、特定の指示対象について述べている。

- (17) a. そんな服買っちゃったんだ。
- b. そんな話、聞いてないんですけど。

同一指示解釈ではソナナをソノに言い換えても感情・評価の意味が入り込まないことを除けば文意は変わらない。つまり、同一指示解釈において感情・評価の意味が生じるのは、ソノで言っても指示自体は保証されるところに、あえてソナナを用いるところにあると考えられるのである。

- (17) a'. その服買っちゃったんだ。
- b'. その話、聞いてないんですけど。

同一指示解釈においては、感情・評価の意味を抜くことはできないようである。ソナナNが用いられる文脈は、かならず感情・評価の意味を伴うような文脈でなければならず、そのような文脈でない場合―典型的には以下のように事実を報告するような文脈―では不自然となる³。

- (18) 昨日生協でぜんざいを食べた。*そんなぜんざいはまずかった。

3 同一指示解釈におけるソノとソナナの関係は次のように図式化することができよう。

i) ソノ：同一指示(先行詞と指示対象との同定) ii) ソナナ：同一指示+属性の付与

ここで、ソナナを用いた同一指示解釈は結局のところ i) と同じということになり、ii) の「属性の付与」は必要ない。この余剰な「属性の付与」が感情・評価の意味を生じるのだと考えられる。なお、ソウイウはソノと同様同一指示の機能しかない(鈴木(2006))ため感情・評価の意味は生じない。(48,49)の議論も参照されたい。

(19) 昨日生協でぜんざいを食べた。とてもおいしく素晴らしい味だった。*そんなぜんざいは京都の大豆を使用して・・・

(20) 昨日道で男の人に会いました。とてもかっこいい男の人で、迷っているようだったので声をかけました。*そんな男の人は田舎から弟さんに会いに来たと言っていて・・・

(18)が不自然なのは、ソナナに与えられるべき属性が少ないからではない。(19) (20)のように、先行情報にソナナで受けるに足る情報が含まれている場合でもこの文脈の中ではソナナで受けることができないのである。

本節では同一指示解釈が先行詞と同一の対象を指示すること、そのことによって感情・評価の意味が義務的に生じることをみた。

2. 2. 種類解釈

前節では、ソナナ文の指示対象が唯一的になる場合には感情・評価の意味が義務的に生じることを見た。一方、(8)でも見たように種類解釈では感情・評価の意味が生じる場合([+e])と生じない場合([-e])がある。これはどういうことだろうか。

鈴木 (2005, 2006)、金水他 (1989) 等が指摘するとおり、ソナナは先行文脈で与えられた情報から類推される属性をNに付与し、種類解釈をするのが基本である。このような場合、ソナナは次のような意味を有すると考えられる。

(21) ソナナN：先行文脈で得られた情報、およびその情報から一般的・常識的に推論して得られる属性をNに付与せよ。

種類解釈では、Nに与えられる属性は複数存在することになり、その属性を持つものは全てソナナNの指示対象となり得る。そのためソナナNは必然的に「そのような属性を持ったNの種類」という解釈になる。(22)では、「そんな帽子」は相手がかぶっている帽子と全く同じ帽子であってもよいが、形状、色、装飾などに多少の差があっても「そんな帽子」の指示対象として認められる。(23)でも、「携帯電話を操作する」から類推される「授業中に学生がしそうなこと」が「そんなこと」により指示される。

(22) (相手がかぶっている麦わら帽子を見て)

かわいい帽子ですね。最近そんな帽子をよく見ますね。

(23) 読むこと、でもまだ1年生だからね。大学院生だったらできるのかもしれないね。

うん。でもなんか態度が全然違って、でもまじめなんです。だから携帯とかやったらどうしようって初め思ってたんですけど全然そんなこともやらないし。(007-384⁴)

種類解釈の特徴として、「ソナナヨウナN」のように、「ような」を挿入して言い換えることができる。一方、特定の指示対象を持つわけではないので、「それ・そのN・そう」などの指示詞での置き換えはできない(#は、ソナナNとの言い換えができないという程度の意味である)。

(24)では「その帽子」と言うことは可能であるがその場合は「あなたがかぶっているのと全く同

4 4名大会話コーパスからの引用であることを示す。(007-384)とはファイル番号txt007の384行目に当該の用例が現れるということである。

じ種類の帽子」という意味になり、「そんな帽子」とは同義でなくなる。

(24) 最近 {そんなような帽子／#その帽子} をよく見ますね。[-e]

(25) 全然 {そんなようなこと／#それ} もやらないし。[-e]

(26) ばかばかしいから(うん) ちょっとその、マイアミとかそういうところに行って、(うん) それで車で借りて(うん) オーランドまで行って、それからみんなでアトランタまで行くとかなんか {そんな(ような)ん／#それ} しようかなと思って。(018-215)

種類解釈では、ソナナN自体には感情・評価の意味はなく、それは、前後の文脈や共起する語彙により与えられ得る。次節で見えていく。

2. 3. 種類解釈と感情・評価の意味

種類解釈では、ソナナN自体には感情・評価の意味はないと考えられる。

(27) (旅行先のことを話していて)

A:あの国では白いシャツに青いネクタイの人が多かったですね。

B:そんな人もいますね。

しかし、文脈や共起する語彙によって感情・評価の意味は生じ得る。

(27)' A:列に並ばないし、大きな声で話しますよね。

B:そんな人もいますね。

(27)'で感情・評価の意味が読み込まれやすいのは「列に並ばず大声で話す」ことがよくないことであると考えられるからである。つまり種類解釈では、感情・評価の意味は前後の語彙や文脈によって読み込まれ得る。

(28) F089: 苦労っていうか、なんか、よく質問に来る。…(中略)…それーで一、文句っていう文句じゃないんですけども、これちょっと難し過ぎたとか、コメントを言うんですね。こっちだったらそんなことを言ったら悪いと思って絶対言わないです。と思ってても。(007-446)

(28)では「そんなこと」は、「難し過ぎた」およびそれに類するようなコメントを言うことと解される。そのようなコメントを教師に対するクレームであると捉える話者にとっては感情・評価の意味が読み込まれるであろう。(28)においては「悪い」という述語が、感情・評価の意味を読み込みやすくしていると考えられる。つまり、種類解釈のソナナNにおいては、それ自体には感情・評価の意味はないものの、ソナナNが現れる前後の文脈や、共起する語彙によってそれが読み込まれ得るということである。

ここまでのことをまとめると次のようになる。

(29)a. 同一指示解釈ではソナナNに義務的に感情・評価の意味が読み込まれる。

b. 種類解釈ではソナナN自体には感情・評価の意味はないが、前後の文脈や語彙によって感情・評価の意味が読み込まれ得る。

3. 感情・評価の意味が読み込まれにくい名詞

3.1. 抽象名詞とソナナ

感情・評価の意味は指示対象の特定性と関わっていることを見たが、前節までの議論がもつともよく当てはまるのは物質名詞などのモノを指す名詞である。一方、個体を指示しないような一連の抽象的な名詞がソナナとともに用いられた場合には感情・評価の意味が読み込まれにくい。

(30)a. 大分険悪でしたか？—そんな 感じ／雰囲気 ですね。

b. 景気はかなり下向きですか。—そんな 傾向／流れ ですね。

これらの例で用いられている名詞は全て、前文や状況を受けて「だいたい、おおよそ…だ」と伝えている。話を一括する用法である。

これまでの研究ではあまり指摘されてこなかったが、ソナナには前文脈をまとめあげているというよりは、より大きな談話、状況といったものを一括するような用法がある。それまでの内容を全て一括りにしてまとめるようなもので、談話の終結部に現れやすい。

(31)a. (授業の終わりに先生が)じゃあ、まあ今日はそんな感じで。

b. (色々話して収拾がつかなくなって)とにかく、そんなことだよ。

このように用いられる名詞には他に「風、よう、わけ、こと、ところ」などがあり、それらがこの用法で用いられた際には感情・評価の意味は読み込まれない。それはこれらのソナナNが述部に用いられており、指示対象を持たない属性読みがなされる用法であるからであろう。

一方、抽象名詞であっても感情・評価の意味が読み込まれることがある。物質名詞の場合には、ある名詞 *a* の外延である個体1と個体2の間に、明確な物質的、空間的な「区切れ」がある(影山他2011)。一般に、物質名詞の指示対象はこの区切れが明瞭であり抽象名詞が指すものは区切れが不明瞭である。それでも多くの抽象名詞の場合には区切れを想定することが可能なように思われる。たとえば、「雰囲気、傾向」には「その場の雰囲気」「この問題の傾向」というように、ある程度の区切れを考えることができる。区切れを想定することができれば抽象名詞でも同一指示解釈が可能になり感情・評価の意味を読み込める場合があることが予測される。

そこで、感情・評価の意味を強制する文脈としていくつかのテスト文を提示する。金水他(1989)ではソナナは「否定の述語とともに使用して、強い否定の気持ちを伴う」ことが指摘されている。これを使ってテストしてみよう。

(32) ソナナNは許せない／認められない／信じられない。

(33) そんな 事実／考え方／方法は許せない／認められない／信じられない。

まず、極めて感情・評価の意味を読み込みにくい名詞として「感じ」をあげることができる。「感じ」は上のテストでいずれも不自然になり、感情・評価の意味を読み込むことができない。

(34) ??そんな感じは許せない／認められない／信じられない。

本稿では「感じ」という名詞が表す指示対象が、極めて曖昧なものであり、どこからどこまでが「感じ」で指し得るものなのか、区切れが明確でないことが関係していると考えられる。一方、ある「事

実」Aは別の「事実」Bとは線引きがしやすく、「考え方」は個人に帰属するという点で、「方法」は現実の場に現出し得るという点で具象性を有しており、区切れを持ちやすいと言える。つまり、同じ名詞句 a で表せる指示対象が a_1 、 a_2 のように区切れが想定できる場合には感情・評価の意味を帯び得ると考えられるのである。以下、いくつかの抽象名詞について見てみよう。抽象名詞のさらなる体系的な記述は今後の課題である。

○「雰囲気・空気・ムード」

「感じ」に準ずるような意味を持つ名詞であるが、「そのパーティーの雰囲気／空気／ムード／??感じ」のように、「感じ」よりも区切れを持ちやすいと考えられる。したがって(35)は「感じ」を用いた場合よりは自然に響く。

(35) そんな 雰囲気／空気／ムード／??感じ には耐えられない。

○「思い・考え方・気分」

これらの名詞は、「私の思い／太郎の考え方／今日の気分」というように言えるため、区切れを帯びやすい。

(36) そんな 思い／考え方／気分 にはなれない。

○「流れ・傾向・必要性」

これらの名詞も、ある個別の「流れ・傾向・必要性」を表すことができる。

(37) そんな 流れ／傾向 は許せない。

(38) そんな 必要性 があるだろうか？

以上、区切れを想定することができる抽象名詞は、感情・評価の意味を読み込むことができることを見てきた。

このことに関連して、「だいたいの・おおよその」は、その名詞が持つ区切れを弱くする、あるいはキャンセルすると考えられる。すると(39)が言えて(40)が言えないことが説明できる。

(39) そんな 雰囲気・傾向 は認められない／許せない。

(40) *_[NP] だいたいの・おおよその そんな 雰囲気／傾向] は認められない／許せない。

(40) では、「雰囲気・傾向」が潜在的に有していた区切れを消し去ることによって、感情・評価の意味が読み込めなくなると考えられるのである。

以上、抽象名詞がソナナと用いられた場合について考察した。話を一括する用法は同一指示解釈ではないので感情・評価の意味は読み込まれないが、多くの抽象名詞では潜在的には感情・評価の意味が読み込まれ得ること、それは指示対象に区切れが想定できることと連動することを見た。

3. 2. そんな＋固有名詞

ソナナと共に起る名詞には、固有名詞もある。そして、固有名詞ではソナナは感情・評価の意味を帯びることはないようである。ソナナ＋固有名詞は、主に書き言葉やテレビのナレーションなどで使用されるため、本節ではBCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス）のデータを用いることにする。

ソナナ+固有名詞には大きく分けると2種類の用法がある。1つは前文の情報をソナナが引き継ぎ後文でその情報が利用される場合、もう1つは前文の情報がソナナによって引き継がれているように見えるが、実際は後文では前文とは異なる情報が提供され、話題転換が起こっているものである。BCCWJでは1970年代後半の文学作品から2008年のデータまでが収録されているが、前者のものは比較的年代が古いものから新しいものまでまんべんなく見られる用法であるのに対し、後者の用法は、比較的新しいデータにしか現れない。この用法はYahoo! ブログなどの、インターネットでの文章に偏る傾向があるようであるが文学作品にも現れる。これがどのような要因によるのかは、別稿に譲る。いずれにせよ、ソナナ+固有名詞においては、本稿で問題にしている感情・評価の意味は読み込まれないことに注意されたい。

まず、後文が前文の情報を引き継ぐタイプを見よう。

- (41) 北川委員長との間に何があったのか。もしそのことでレイ子が苦しんでいるのだとして、いったい自分に何がしてやれるだろう。いまの僕は何の役にもたっていない。レイ子はただ、ひとりで酒を飲み、ひとりで笑っているだけだ。すぎるものもなく、ただ耐えている。せいっぱい自分をかきたてて、気をまぎらそうとしているそんなレイ子を力づけることも慰めることもできない自分がはがゆくてならない。

（『僕って何』三田誠広著、河出書房新社、1977）

- (42) …柳の木が生えており、垂れ下がった枝の間には、生首がこちらを見つめています。その見開いた目が、たとえようもなく恐ろしいのです。洋平がうとうとすると、必ず、その夢を見るので、それが耐えられなかったのです。洋平は段々と憔悴して行きました。突然、奇声を上げて笑ったかと思うと、次には大声で泣きました。そんな洋平を見て父は自分の頬を打ち、そして母は、おろおろとして泣くばかりでした。

（『リボン生まれかわった日』香月美里著、文芸社、2005）

(41)では「そんなレイ子を力づけることも慰めることもできない」と言っているが、この場合のレイ子は前文で語られるような、苦しみ、自暴自棄になっているレイ子でなければならない。同様に(42)では「そんな洋平」は、憔悴し奇妙な行動をとる洋平を見て父は荒れ、母は泣くのである。(42)ではソナナを取り除けば不自然になることにも注意されたい。

固有名詞は一般的には常に同一の指示対象を指示すると考えられている（Kripke1972等）。しかし堤(2002, 2012)では、庵(1996, 2007)の指摘する次のようなソノ+固有名詞において、場面レベルでの指示（stage-level, Carlson1977）がなされていると論じている。つまり、(43)において「その順子」の指示対象は「順子」そのものではなく「「あなたなしでは生きられない」と言っていた（場面における）順子」であるということである。(43)においてもソノを除くと文連鎖が不自然になることに注意されたい。これは庵(2007)がいうように「テキストの意味の付与」（本稿では前文の情報）が義務的であるからである。(43)のソノと同様に、(41) (42)においてもソナナによる情報の引き継ぎは義務的であると考えられる。

- (43) 順子は、「あなたなしでは生きられない」と言っていた。その順子が、今は他の男の子供を3人も産んでいる。（庵(2007:99)）

もしこの堤 (2002, 2012) の分析が、いま議論しているソナナ+固有名詞にも適用できるのであれば、上のデータにおける固有名詞は同一指示解釈ではなく、種類解釈の一種であることになる(「あなたなしでは生きられない」場面レベルの順子は個体としての順子の一種である)。したがって、感情・評価の意味は生じないことが説明される。

次に、前文の情報を後文が引き継がない例を見てみよう。

(44) 8年前に会社をリストラされ、この地で蕎麦屋を開いた山田さん。そんな山田さんが最近はまっているのが、切手収集です。(作例)

(45) みなさん、オレンジリボン知ってますか？ 昨日は、名駅(名古屋駅)に行ってきました。そこで、今のななちゃん人形のお洋服は…その前に…ななちゃん人形とは？ 名鉄百貨店[ヤング館]の前にどーんと存在する大きな人形のナナちゃん。待ち合わせには最適な目印！ そんなナナちゃんの最新ファッションや生き立ちを紹介します。

(Yahoo! ブログ 2008)

これらの例では、前文の情報を引き継ぐタイプとは異なり、ソナナは後文の文脈に対して関連のある情報を与えていない。(45)では、前文脈では「ナナちゃん」が「名鉄百貨店のヤング館の前に存在し、待ち合わせに最適な目印」であることを言っている。これは後文の「ナナちゃんの最新ファッションや生き立ち」とは無関係である。この意味においてソナナは情報を引き継ぐ機能を果たしていない⁵。この用法は、ソナナが指示詞として先行詞との同定を行う用法とは考えられないので、同一指示解釈でも種類解釈でもないだろう。本稿ではこの用法はソナナの特殊な用法として指摘するにとどめ、感情・評価の意味が生じない理由については今後の課題としたい。

以上、本節では感情・評価の意味が読み込まれにくい名詞として、抽象名詞、そして固有名詞を取り上げた。抽象名詞では「区切れ」が想定しやすければ感情・評価の意味が読み込まれ得る。固有名詞は前文の情報を引き継ぐ用法と引き継がない用法があるが、前者では先行詞とソナナNとが別のレベルの対象を指しているので種類解釈の一種であると考えられる。後者はソナナが同定の機能を果たしておらず本稿の枠組みから説明することはできない。データの指摘のみにとどめ、今後の課題とする。いずれにしても、固有名詞においては感情・評価の意味は生じないことが分かった。

4. まとめと今後の課題

本稿で明らかにしたことは以下のとおりである。

- (46)a. ソナナの用法には同一指示解釈と種類解釈とがある。
- b. 同一指示解釈では感情・評価の意味は必ず生じる。
- c. 種類解釈では感情・評価の意味は前後の文脈により付与され得る。

5 (44, 45) は野田 (1989:138) の「真性モダリティをもたない文」を支えるために用いられる指示詞の1つであろう。このタイプの文が全て「真性モダリティをもたない文」となるかはさらなる調査が必要である。今後の課題としたい。

- d. 抽象名詞では一般的に、具体物を指す名詞に比べて感情・評価の意味を帯びにくい
が、同一指示と解釈されればそれは生じ得る。
- e. ソナナが固有名詞に付与される場合、前文脈が義務的な場合とそうでない場合があ
り、ともに感情・評価の意味はない。

今後の課題として、抽象名詞とソナナのさらなる精緻な記述があげられる。また、特殊な用法としたソナナ+固有名詞についてさらに考察する必要がある。特にソノでも同様の用法があることは興味深い(47)。

(47) (= (44)) 8年前に会社をリストラされ、この地で蕎麦屋を開いた山田さん。その山田さんが最近ハマっているのが、切手収集です。

本稿では感情・評価の意味は指示対象が確定していることと関係があるとした。感情・評価の意味は、あえてなくてもよいような余剰的な操作が行われ、しかも指示対象が特定されている時に生じるようである。ソナナの場合、ソノで同一指示解釈が成立するところにあえてソナナを用いることで義務的に生じる。このような現象は例えばソナナに対応する疑問詞ドンナでも、(48) bのようにその人の属性が特定されているような場合には感情・評価の意味が読み込まれる。(49)も同様である。

- (48) a. どんな人でしたか? [-e]
- b. (ひどい人の話を聞いて)どんな人だ、その人。[+e]
- (49) a. (失敗したと聞いて)何してるんだよ。
- b. (偉そうなことを言っている人に)何様だ、お前。

感情・評価の意味を有する文がどのような特徴を持っているか、その相違についての研究が必要であろう。全て今後の課題である。

参考文献

- Carlson, Gregory N. (1977) *Reference to kinds in English*. Ph.D. Dissertation, University of Massachusetts, Amherst.
- 庵功雄 (1996) 「『それが』とテキストの構造—接続詞と指示詞の関係に関する一考察」『阪大日本語研究』8:29-44、大阪大学文学部日本語学講座
- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- 庵功雄・三枝令子 (2013) 『日本語文法演習まとまりを作る表現』スリーエーネットワーク
- 影山太郎 (編) (2011) 『日英対照名詞の意味と構文』大修館書店
- 影山太郎・眞野美穂・米澤優・當野能之 (2011) 「第1章 名詞の数え方と類別」影山 (編) (2011) 所収
- 金水敏 (1999) 「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6(4): 67-91、自然言語処理学会
- 木村英樹 (1983) 「『こんな』と『この』の文脈照応について」『日本語学』2-11: 71-83、明治書院
- 金水敏・木村英樹・田窪行則 (1989) 『日本語文法セルフマスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版
- Kripke, Saul A. (1972) "Naming and Necessity." In Davidson, Donald and Gilbert Harman (eds.), *Semantics of Natural Language*, 253-355, Reidel.
- 中俣尚己 (2010) 「『そんな』や『なんか』はなぜ低評価に偏るか?—経験基盤的ヒエラルキー構造からの説明—」JCLA10: 427-437、日本認知言語学会
- 野田尚史 (1989) 「真性モダリティをもたない文」仁田義雄・益岡隆志 (編) 『日本語のモダリティ』131-157、くろ

しお出版

岡部寛(1995)「コンナ類とコウイウ類」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下)複文・連文編』638-646, くろしお出版

鈴木智美(2005)「指示詞「そんな」に見られる感情・評価の意味:その意味の実態を探る」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』31: 61-75.

鈴木智美(2006)「「そんなX…」文に見られる感情・評価の意味—話者がとらえる事態の価値・意味と非予測性—」『日本語文法』6-1:88-105、日本語文法学会

堤良一(2002)「文脈指示における指示詞の使い分けについて」『言語研究』122: 45-78、日本言語学会

堤良一(2012)『現代日本語指示詞の総合的研究』ココ出版

コーパス

名大会話コーパス(<https://dbms.ninjal.ac.jp/nuc/index.php?mode=viewnuc>)

現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ, http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)

【付記】

本稿は日本学術振興会の科学研究費補助金による基盤研究(C)「日本語指示詞の現場 指示用法における社会的・地域的変異の研究」(課題番号: 25370519、研究代表者、堤良一)の成果の一部である。